

飛ばし屋

クワクサ

2004年9月15日

畑の端や庭の隅に、ごく普通に見られる桑の葉に似た高さ60cmほどの草があります。クワクサです。葉が似ているのは、それもそのはず、こちらは草ですが同じクワ科の親戚同士です。

クワクサは、葉の付け根に雄花・雌花の混じった丸い塊をつくっています。雄花は4枚の花被とそれに重なる4本のおしべがあります。蘭花すると2つ折に置まれたおしべが1本ずつ、ピンと伸びて外側に反り返ります。その時の振動で花粉を空中に飛ばすのです。見ていてもその動きの速さにびっくりさせられます。

一方雌花の方は、花被に包まれた

子房に1本のめしべだけが、チョココンと片側に貼りついています。長い柱頭面(花粉がつく所)には細毛が密生し、飛んできた花粉をキャッチするのです。れっきとした風媒花なのです。

実が熟した頃、クワクサの茎や実に触れると、ピチピチと実が飛んできて手に当たります。実を包んでいた花被が肥厚し、その圧力に弾き出されたのです。

小さな1mmほどの実ですが、少し変わっています。学者によっては実と呼ぶ人と、種子と呼ぶ人がいます。それはこの実の上3分の2ほど果皮が被っていて実のようですが、下の3分の1ほどは種子が丸出しで種のようなものであるのです。一部分に果皮をつけているのは、虫に種を運んでもらうための餌なののでしょうか。また、下のすべすべしている種の部分は、滑りよくして、飛びやすくしているのでしょうか。実の飛ぶ距離などと合わせて調べてみたいものです(篠原 智男)。

